

2015年度卒業式・学位授与式

自信と経験を胸に社会へ



2015年度大阪経済大学卒業式・学位授与式が3月15日(火)、午前と午後の部に分かれ、A館フリアホールで行われた。午前は、経済学部591名、人間科学部190名、経済学研究科1名、人間科学研究科10名が、午後は、経営学部521名、情報社会学部・経営情報学部246名、経営学研究科30名、経営情報研究科の9名が、教職員や後輩たちに見送られながら本学から旅立った。

式典では、まず卒業生の門出を祝して、吹奏楽総部の演奏とギリークラブの合唱が披露され、来賓の田村正晴大樟会会長をはじめ、徳永光俊学長、佐藤武司理事長、各学部長、研究科長が登壇。続いて徳永学長から学部学科、研究科の総代に、卒業証書や学位記、そして総代個人に優秀な成績を顕彰する黒止賞(賞状と記念品)が贈呈された。

式辞では、徳永学長が「時代は大きな転換期を迎えている。人類は自然を征服してきたが、これからは征服ではなく共生が求められる時代になる。新しい時代を創るのは皆さんだ」と前置きし、「社会では思うようにならないことが多いが、そんな時自分が守りたいもの、人生で実現したいものは何かを考えてほしい。本



午前の部・総代の皆さん

学部の初代学長である黒止先生が「道徳は天地を貫く」との言葉にあるように、人の生きるべき道徳は世界を貫いている。この大経大オリジナルの言葉を胸に刻み、生きてほしい」と、卒業生にはなむけの言葉を贈った。

続く佐藤理事長は「世の中は激しいスピードで変化している。皆さんは自ら考える人間となり、大学の発展や社会を支えてほしい。これからは生活をかけて働くことになる。楽しいことばかりではないが、大学で身につけた自信で乗り越えてほしい」と卒業生を激励。



来賓の田村大樟会会長は「卒業式を迎えられたことを保護者に感謝する」と話した。

卒業生代表による答辞では、午前の部は経済学部尾田瑞樹さんが「経済学を学び、経済の動向が読み取れるようになった。多様な人と交流し対人力が身についた。自分の新たな一面に気づく毎日だった。これからも一歩ずつ前進していきたい。午後の部は情報社会学部山田賢人さんが「4年間で多くのことを学んだ。またフットイクなどで貴

式典終了後、卒業生はゼミ別に分かれ、担当教員から一人ひとりに卒業証書が授与された。宋仁村准教授が「ゼミ活動により、人との付き合いの難しさがわかったのではなか。ひとつの論文を作り上げたことも貴重な思い出となる」と話し、卒業証書とともに分厚い卒論集を手渡していた。

重なる経験を重ね、沢山の友人ができた。全てが生涯の宝。社会で大きな問題に直面しても諦めず、大学で得たことを糧に挑戦していきたい」と決意を述べた。そして最後に全員が起立して、ギリークラブのリードにより学歌を斉唱し、卒業式は閉式となった。

主な記事

contents

- (1面) 2016年度入学式、2015年度卒業式他
- (2面) 株主総会、入学前スクリーニング他
- (3面) 大樟会だより
- (4・5面) ゼミ特集
- (6・7面) 経大スポーツ
- (8面) 教職KAWARABAN他

ホームカミングデーのご案内

本年度もホームカミングデーを開催します。学生時代のゼミの先生や同窓生と再会をお楽しみください。色々な催しをご用意して、皆様のお越しをお待ちしています。

日時：2016年10月30日(日)
10:00~16:00

場所：大阪経済大学

学園祭も同時開催!!

お問い合わせ先 総務部または大樟会事務局



2016年度入学式

生きる力を養い 実り多き4年間に

2016年度入学式が4月1日(金)、午前と午後の部に分かれ、A館フリアホールで行われた。午前は、経済学部、人間科学部、経済学研究科、人間科学研究科、午後は、経営学部第1・2部、情報社会学部、経営学研究科、経営情報研究科、計2027名が本学に入学。大学生・大学院生としての新しい生活をスタートさせた。



式典ではまず、新入生「新入生を迎え嬉しく思う。入学を祝って吹奏楽総部の演奏とギリークラブの合唱が行われ、続いて来賓の田村正晴大樟会会長、宮本直樹後援会長、そして徳永光俊学長、佐藤武司理事長、各学部長、各研究科長が登壇し紹介された。

か。4年間学びながら考え、各人各様の解釈をしてほしい」と語った。最後に長田弘さんの詩、世界は二冊の本の二冊を讀み上げ、「大学時代に多くの本を讀んでほしい」と締めくくった。

新入生代表による宣誓では、午前の部は経済学部奥村奏音さんが、午後の部は情報社会学部堀内雄斗さんが、歴史ある大阪経済大学において、自己の目標達成のため目の前の課題に真摯な姿勢で取り組み、日々の努力を怠らず精一杯努力していきま」と決意を述べた。続いて佐藤理事長が式辞として、「4年間はあっという間。それぞれの目標を定め努力してほしい。



部尾田瑞樹さんが「経済学を学び、経済の動向が読み取れるようになった。多様な人と交流し対人力が身についた。自分の新たな一面に気づく毎日だった。これからも一歩ずつ前進していきたい。午後の部は情報社会学部山田賢人さんが「4年間で多くのことを学んだ。またフットイクなどで貴

学歌を斉唱し閉式となった。式典後、新入生に対してはクラス別に入学書類の進路などについて説明した。

午後、各部の経営学部の学部説明会では、四條北斗学部長補佐が「経営と法の融合」などの学理や、学科別の学習内容やシステムなどを紹介。クォーター制(4学期制)の導入や、第2部の大規模改組など、より魅力的な教育体制を整えたことをアピールした。続いて木村俊郎学部長が挨拶。

午前の部の人間科学部の会場では、まず平等文の導入や、第2部の大規模改組など、より魅力的な教育体制を整えたことをアピールした。続いて木村俊郎学部長が挨拶。

学歌を斉唱し閉式となった。式典後、新入生に対してはクラス別に入学書類の進路などについて説明した。

午後、各部の経営学部の学部説明会では、四條北斗学部長補佐が「経営と法の融合」などの学理や、学科別の学習内容やシステムなどを紹介。クォーター制(4学期制)の導入や、第2部の大規模改組など、より魅力的な教育体制を整えたことをアピールした。続いて木村俊郎学部長が挨拶。

学歌を斉唱し閉式となった。式典後、新入生に対してはクラス別に入学書類の進路などについて説明した。

午後、各部の経営学部の学部説明会では、四條北斗学部長補佐が「経営と法の融合」などの学理や、学科別の学習内容やシステムなどを紹介。クォーター制(4学期制)の導入や、第2部の大規模改組など、より魅力的な教育体制を整えたことをアピールした。続いて木村俊郎学部長が挨拶。

学歌を斉唱し閉式となった。式典後、新入生に対してはクラス別に入学書類の進路などについて説明した。

2016年度 教育懇談会のお知らせ

下記の日程を予定しております。

大阪	6.18 国受付 10:00~ ▶大阪経済大学	米子	6.26 回受付 10:00~ ▶国際ファミリープラザ	岡山	7. 9 国受付 10:30~ ▶岡山プラザホテル
金沢	6.25 国受付 10:00~ ▶TKP金沢ビジネスセンター	京都	7. 2 国受付 10:30~ ▶TKPガーデンシティ京都	高松	7.10 国受付 10:30~ ▶JRホテルクレメント高松



生の現場に触れ 経営を学ぶ

株式会社エーアイティ（海上・航空輸送）の第29回・定時株主総会が、本学A館フレアホールで開催され、事前に登録した経営学部生など約55名が、社長ら取締役による事業報告や、株主との質疑応答、議案審議などを傍聴した。また、インターンシップ生として学生4名が、前日の準備・当日の受付などの運営業務を体験した。

経営学部生などは株主総会が株式会社の最高意思決定機関であることを学ぶが、株主でなければ実際に企業の株主総会を見学する機会はない。また学生の総会の傍聴を認め

今回のテーマは「在学生との交流会」つながる、分かる、楽

2016年度の本学入学予定者を対象とした「第2回入学前スクーリング」が、12月に引き続き、3月24日（木）・26日（土）の2日間、大隅キャンパスD33教室で行われた。

本学は従来、推薦入試による早期合格者に対して、入学するまでの期間を活用し学習習慣が身につくよう、送付教材による入学前教育を実施してきた。しかし、「入学後に友だちができるか」といった不安や、「大学や学生生活について知りたい」など多数の声があり、2016年度から従来の教材教育に加えて、新たに公募推薦以外の推薦入試合格者を対象とした「入学前スクーリング」を実施することになった。この取り組みでは、入学前における「不安解消」「仲間発見」「大学理解」を目的として



先輩体験記

し、学生目線のリアルな大学生活を紹介。先輩たちの巧みなリードで、参加した入学予定者たちは自然に打ち解け、初対面の人とも笑顔で言葉を交わす姿が見られた。

午後のプログラムは、「自己理解促進／五つ星未来シート」、「友だちづくり交流会」、「大学生生活の目標設定」一連の目標。最初の自己理解促進では、在学生と対話しながら高校時代を振り返り、自分の強みや弱み・興味・関心などを探り、入学後にやってみたいことをシートに記入。続く友だちづくり交流会では、全員が自身の似顔絵名刺などを持って会場をめぐる、仲間づくりのワークにチャレンジ。恥ずかしそうな表情ながら、勇気を出して初対面の人に話しかけるなど、交流を深めていた。

入学前スクーリング 入学前の不安を解消！ 充実の大学生生活を送るために

最終プログラムである大学生生活の目標設定では、入学後に達成したい自身の目標と、そのた

最後に司会を務めた在学生たちが「遊びや学びで、いろいろな事に挑戦してほしい」「今日出会った人と一緒に大学生活を有意義なものにしてほしい」など締めくくりに挨拶をし、全員で記念撮影を行ってスクーリングが終了した。

午後、学生目線のリアルな大学生活を紹介。先輩たちの巧みなリードで、参加した入学予定者たちは自然に打ち解け、初対面の人とも笑顔で言葉を交わす姿が見られた。



友だちづくり交流会

前日の準備と受付に携わった 経営学部3年生4名の感想



傍聴した 学生のコメント

●小森理史さん
授業で教わった株主総会に実際に知る良い機会だと思い参加した。総会の準備も手伝わせていただき、受け身ではなく自ら行動する社会人の姿に刺激を受けた。

●嵯峨植槇さん
受付では、臨機応変に対応することの大切さを痛感した。また、静かに傍聴している株主と専門知識を持ち積極的質問する株主に二分されることが印象に残った。

●島本桜さん
商業高校出身だが、事業報告や質疑応答の内容には理解が難しい部分もあり、経営学とビジネス法をもっと深く学ばないといけないと感じた。

●藤本梨央さん
事業報告のデータを見て、会社は円安や温暖化など世界経済や環境に影響を受けることを知った。また想定外の質問などにも答えられる力を身につけたいと思った。

●広報隊 香川由紀乃さん
印象深いものは、株主総会の質問時間だ。私は株主さんの主張がストレートで驚いた。例えば、株価の右肩上がりになるための株価対策についてや会社の知名度をよりあげる対策についてなど、強烈な質問が次々と飛び交っていた。授業では質問をするという説明だけで終わっていたが、今回の参加で質問時間の印象がすごく変わった。

2015年度卒業生の主な就職先

建設業

株式会社 一条工務店、積水ハウス株式会社、大東建託株式会社、大和ハウス工業株式会社、株式会社 テクノ菱和、日本建設株式会社、日本ジコウ株式会社

製造業

アース製薬株式会社、アルインコ株式会社、イサム塗料株式会社、株式会社 石田大成社、株式会社 伊藤園、イトマン株式会社、岩谷瓦斯株式会社、永大産業株式会社、SMC株式会社、エスケー化研株式会社、NTN株式会社、エレコム株式会社、オークラ輸送機株式会社、大阪シーリング印刷株式会社、株式会社 大阪めいらく、株式会社 岡村製作所、カイトック株式会社、科研製薬株式会社、春日井製菓株式会社、株式会社 かわでん、紀州ファスナー工業株式会社、京都機械工具株式会社、株式会社 京都西川、株式会社 桐井製作所、クリナップ株式会社、株式会社 くらがね工作所、小泉産業株式会社グループ、高圧ガス工業株式会社、甲南電機株式会社、株式会社 神戸屋、コーデンシ株式会社、コマニー株式会社、佐川印刷株式会社、三和澱粉工業株式会社、敷島製パン株式会社、株式会社 自重堂、株式会社 ジャヴァコーポレーション、ジャパンマテリア株式会社、シンフォニアテクノロジ株式会社、スガツネ工業株式会社、株式会社 スノーピーク、セツカートン株式会社、千寿製薬株式会社、第一屋製パン株式会社、タイガースポリマー株式会社、株式会社 ダイケン、株式会社 ダイサン、大同塗料株式会社、ダイハツディーゼル株式会社、大宝工業株式会社、株式会社 タカギ、高田機工株式会社、タカラスタンダード株式会社、タキゲン製造株式会社、田島ルーフィング株式会社、株式会社 タナックス、タニコー株式会社、株式会社 鶴見製作所、テクニカル電子株式会社、東洋シャッター株式会社、鳥居薬品株式会社、内外電機株式会社、ナカバヤシ株式会社、田島ルーフィング株式会社、日工株式会社、日東精工株式会社、日本アイ・エス・ケイ株式会社、日本イーライリリー株式会社、日本シール株式会社、株式会社 日本デジタル研究所、日本トーカーパッケージ株式会社、日本トムソン株式会社、パナソニックシステムネットワーク株式会社、ハリキ精工株式会社、株式会社 フジコー、富士シート株式会社、富士通株式会社、富士電波工業株式会社、株式会社 フジマック、ブルーミング中西株式会社、ホーチキ株式会社、ホクシン株式会社、ホソカワミクロン株式会社、ホッカンホールディングス株式会社、株式会社 マキタ、マツモト機械株式会社、株式会社 マルゼン、マルホ株式会社、マルホ発條工業株式会社、三浦工業株式会社、宮川化成工業株式会社、モリテックスチール株式会社、ロックベイント株式会社

電気・ガス・熱供給・水道業

大和ガス株式会社

情報通信業

アイエックス・ナレッジ株式会社、株式会社 アイネス、株式会社 アルファシステムズ、株式会社 EMシステムズ、株式会社 インテリジェンスビジネスソリューションズ、株式会社 STNet、NCS&A株式会社、エヌ・ティ・ティ・データ・カスタマサービス株式会社、株式会社 エヌ・ティ・ティ・データ関西、エン・ジャパン株式会社、株式会社 コア、株式会社 さくらケーシーエス、株式会社 システムリサーチ、株式会社 ソフトウェア・サービス、株式会社 TKC、トランスコスモス株式会社、株式会社 日刊自動車新聞社、パナソニックソリューションテクノロジ株式会社、株式会社 日立システムズネットワークス、株式会社 日立ソリューションズ・クリエイト、株式会社 フォーカスシステムズ、富士ソフト株式会社、株式会社 ワークスアプリケーションズ

運輸業

アートコーポレーション株式会社、株式会社 エーアイティ、王子物流株式会社、近江鉄道株式会社、近畿日本鉄道株式会社、京阪バス株式会社、鴻池運輸株式会社、株式会社 サカイ引越センター、センコー株式会社、西日本旅客鉄道株式会社、日通・パナソニックロ

ジスティクス株式会社、阪急電鉄株式会社、岡備ホールディングス株式会社

卸売業

朝日機材株式会社、株式会社 あらた、アルフレッサ株式会社、イケガミグループ、伊丹産業株式会社、伊藤忠エネクスホームライフ関西株式会社、因幡電機産業株式会社、井上定株式会社、株式会社 UEX、ウエノ株式会社、エース株式会社、株式会社 エービシー商会、エコトレーディング株式会社、NTTビジネスソリューションズ株式会社、オーエル株式会社、株式会社 大塚商会、株式会社 オートボックスセブン、株式会社 オービックオフィスオートメーション、岡本無線電機株式会社、奥村機械株式会社、オムロン関西制御機器株式会社、花王カスタマーマーケティング株式会社、加藤産業株式会社、株式会社 ガリバーインターナショナル、株式会社 カワサキモータースジャパン、クワウ株式会社、クリエイト株式会社、株式会社 ケーエスケ、小泉成器株式会社、国分グループ本社株式会社、株式会社 ザナックス、三共スポーツ株式会社、株式会社三笑堂、株式会社 サンセイテクノス、サントリービバレッジサービス株式会社、Gテリア株式会社、株式会社 ジャンリ商事、資生堂ジャパン株式会社、島田商事株式会社、株式会社 ジャクエツ、株式会社 ジャパンビバレッジホールディングス、ジュテックホールディングス株式会社、新生紙パルプ商事株式会社、杉田エース株式会社、杉本商事株式会社、株式会社 スズケン、清和中央ホールディングス株式会社、ゼット株式会社、センコー商事株式会社、泉州電機株式会社、大統産業株式会社、ダイトエレクトロン株式会社、ダイニク・ジュノ株式会社、ダイワボウ情報システム株式会社、株式会社たけでん、株式会社 チクマ、月星商事株式会社、都築電気株式会社、株式会社 椿本マシナリー、株式会社 デザインーク、株式会社 電響社、東洋カーマックス株式会社、トーホークグループ、ドーマンハヤシ株式会社、株式会社 栃木屋、轟産業株式会社、株式会社 鳥羽洋行、トブルック株式会社、中日本フード株式会社、中山福株式会社、西川産業株式会社、西日本イワタニガス株式会社、株式会社 日伝、ニチモウ株式会社、株式会社 日興商会、日通商事株式会社、日本産業株式会社、日本電気機器株式会社、株式会社 日本電商、日本電設資材株式会社、株式会社 ハークスレイ、パナソニックリビング近畿株式会社、株式会社 PALTAC、ハンナン株式会社、株式会社 ビームス、日立空調関西株式会社、福栄鋼材株式会社、福西電機株式会社、不二電機株式会社、フジモトHD株式会社、扶桑電通株式会社、株式会社 紅中、宝永電機株式会社、株式会社 ホンダトレーディング、マツ六株式会社、萬世電機株式会社、株式会社 ミキハウス、水上金属株式会社、株式会社 ミスミグループ本社、宮野医療器株式会社、株式会社 ミロク情報サービス、株式会社 ムトウ、村中医療器株式会社、株式会社 メディコスヒラタ、株式会社 モリタ、株式会社 モンベル、株式会社 山星屋、株式会社 やよい、UCC上島珈琲株式会社、リック株式会社、株式会社 菱和、株式会社 ワキタ、和光株式会社、渡辺パイプ株式会社

小売業

青山商事株式会社、株式会社 アルペン、ウエルシア薬局株式会社、株式会社 オークワ、株式会社 大塚家具、株式会社 関西スーパーマーケット、株式会社 紀伊國屋書店、株式会社 近鉄百貨店、コーナン商事株式会社、ゴティバ ジャパン株式会社、株式会社 コメリ、株式会社 ジェイアイエス、四国岩谷産業株式会社、島村楽器株式会社、上新電機株式会社、株式会社 スギ薬局、生活協同組合コープこうべ、ゼビオ株式会社、株式会社 セブソーイレブン・ジャパン、ディーゼルジャパン株式会社、株式会社 ニトリ、株式会社 ハートフレンズ、株式会社 阪食、株式会社 日比谷花壇、ブックオフコーポレーション株式会社、株式会社 平和堂、株式会社 ユナイテッドアローズ、株式会社 ヨドバシカメラ、株式会社 ライフコーポレーション、株式会社 LIXILビバ、株式会社 レリアン、株式会社 ロック・フィールド

金融・保険業

藍澤證券株式会社、株式会社 池田泉州銀行、いちよし証券株式会社、株式会社 伊予銀行、岩井コスモ証券株式会社、SMBC日興証券株式会社、SMBCフレンド証券株式会社、大阪厚生信用金庫、大阪シティ信用金庫、大阪信用金庫、岡三証券株式会社、オリックス銀行株式会社、株式会社 香川銀行、株式会社 関西アーバン銀行、北おおさか信用金庫、株式会社 紀陽銀行、株式会社 京都銀行、京都中央信用金庫、株式会社 近畿大阪銀行、近畿産業信用組合、株式会社 近畿しんきんカード、住友生命保険相互会社、第一生命保険株式会社、株式会社 中国銀行、東海東京フィナンシャル・ホールディングス株式会社、株式会社 徳島銀行、株式会社 鳥取銀行、株式会社 南都銀行、日本生命保険相互会社、野村證券株式会社、株式会社 肥後銀行、株式会社 百五銀行、株式会社 百十四銀行、株式会社 福邦銀行、三井住友海上火災保険株式会社、株式会社 三井住友銀行、株式会社 三菱東京UFJ銀行、株式会社 みなと銀行、明治安田生命保険相互会社、株式会社 リそな銀行

不動産業

住友不動産販売株式会社、東急リパブル株式会社、日本エスリード株式会社、日本ハウスインク株式会社、株式会社 長谷エリアルエステート、三井住友トラスト不動産株式会社、三井不動産リフォーム株式会社、三菱UFJ不動産販売株式会社

飲食店・宿泊業

株式会社 イオンイーハート、株式会社 グルメ杵屋、サトレストランシステムズ株式会社、株式会社 トリドール、日本KFCホールディングス株式会社、株式会社 ライフフーズ、リゾートトラスト株式会社

医療・福祉

株式会社 エスアールエル、公立大学法人 大阪市立大学医学部附属病院、オリックス・リビング株式会社、株式会社 スーパー・コー、株式会社 チャーム・ケア・コーポレーション、日本ステリ株式会社、株式会社 ベネッセスタイルケア

教育・学習支援業

学校法人 大阪経済大学、大阪府立芦間高等学校、大阪府立久米田高等学校、学校法人 大橋学園豊里幼稚園、関西中央高等学校、岸和田市立産業高等学校、学校法人 近畿大学弘徳学園、堺市立さつき野小学校、島根県立大東高等学校、学校法人 常翔学園、摂津市立第五中学校、徳島県鳴門市第一中学校

複合サービス業

日本郵政株式会社、兵庫県農業協同組合連合会、兵庫六甲農業協同組合

サービス業

株式会社 アイデム、株式会社 アクティオ、株式会社 アサヒセキュリティ、株式会社 インテリジェンス、SMBCセンターサービス株式会社、SMBC融資事務サービス株式会社、F&Mパートナーズ税理士法人、一般社団法人 大阪府中小企業診断協会、株式会社 オージースポーツ、関西アーバン銀リース株式会社、株式会社 クリック・アンド・リバー社、株式会社 ジェイアール西日本総合ビルサービス、株式会社 ジェイアール西日本メンテック、ジェイコムホールディングス株式会社、株式会社 セガエンタテインメント、大和リース株式会社、東武トップツアーズ株式会社、東洋テック株式会社、西尾レントオール株式会社、西日本高速道路サービス・ホールディングス株式会社、一般社団法人 日本自動車連盟、日本年金機構、株式会社 日本旅行、東山産業株式会社、非破壊検査株式会社、一般社団法人 兵庫県医師会、株式会社 船井総合研究所、株式会社 プラン・ドゥ・シー、吉忠マネキン株式会社、株式会社 読売旅行、ワタキューセイモア株式会社

公務

池田市役所、大阪市消防局、大阪府警察本部、大阪府庁、警視庁、航空自衛隊、滋賀県警察本部、高槻市役所、東京消防庁、兵庫県警察本部、陸上自衛隊、和歌山県警察本部

会長ご挨拶(要旨) “大学はだれのものか?”

大樟会会長 田村 正晴

一昔前のことですが「会社はだれのものか」が話題になったことがあります。所謂コーポレートガバナンスのあり方が議論されました。経営者、株主、組合の過度の圧力や不当な要求を抑制し、それぞれの役割を果たし、企業の社会的責任の履行と企業の繁栄をもたらす仕組みが見直されてきました。

今、大学でも同じようなことが起こっています。「大学はだれのものか」の議論が始まっているのです。大学の構成員がそれぞれの役割を果たし、大学の社会的責任の履行と大学の繁栄をもたらす仕組み、言わばユニバーシティガバナンスの見直しです。大学大衆化時代を迎え800校近い大学がサバイバル競争にしのぎを削り、大多数の学生が職業人を目指す現状から、大学は決して教職員だけのものではなく学生、保護者、卒業生、企業社会、地域社会等の多くのステークホルダーのものである、との認識が深まりつつあります。

大樟会も「学外ステークホルダー」の一翼を担うものとして、その役割を果たしていかなければなりません。大学の改革と発展を見ることが、取りも直さず卒業生の帰属意識を高め、大樟会の発展につながります。したがって、私達は自ずと「大学の将来像」に大きな関心を持たざるを得ないのです。

そうした現状認識の下、昨年は80周年事業の一環として臨時全国支部長会議を開催し、支部長の声として、①地方試験会場の復活、②地方の卒業生の出身高校訪問、③子弟入試の促進、の3点を要望書として大学に提出しました。同窓会の歴史の中で、初の試みではなかったでしょうか。今後とも、私達は様々な形で大学との対話と絆を深め、「モノ言う同窓会」を堅持してまいります。人のつながる力を育て組織し、反映させていくことは同窓会の役割であり、私達に課せられた使命です。

今年度の主な課題について若干申し添えます。

1点目は、「三人集れば大樟会」の精神で、規模に拘らず様々な機会と場を設けていくことです。今、大樟会の傘下には60ほどの支部・団体がありますが、同窓会100周年を視野に100支部・団体を目標に長期的な挑戦をしていきたいものです。

2点目は在学生に占める女子学生の比率は、25%に迫っています。すでに大樟会でも女子の比率は年々高まっています。旧高商以来の「男臭いOB会」からOGも集える同窓会や「女子会」にどのように変身できるのか、喫緊の課題となつてまいりました。

3点目は、学生支援事業をさらに強化してまいります。在学生への「支援対策費」として①大樟会奨学金制度の設立、②地方受験生の支援事業を推進いたします。また、卒業生子弟(親子3代)の入学支援策も継続課題として検討してまいります。

皆さんのご理解と、さらなるお力添えをお願いいたし、ご挨拶いたします。

大樟会だより

2016年度
大樟会理事会大学の奨学金制度
支援に向けて始動

平成28年度大樟会理事会が5月28日(土)午後1時からD館32教室で開催された。当日は、理事総数214名のうち102名が出席、委任状提出が75名で、会議は成立した。はじめに物收者に対し、全員で黙祷を行った後、小林真人副会長の開会宣言があり、田村正晴大樟会会長が挨拶を行った(要旨別記)。続いて議案審議に入り、昨年と同じく議長に進木伸次郎常務理事(33回)、副議長に田中伸治常務理事(45回)を選出。まず、新しく常務理事に就任した眞鍋一美氏(32回)、西村幸雄氏(43回)、山田武氏(74回)の3氏が紹介された後、審議に入った。

第1号議案の平成27年度事業報告では、事務局から総務部、広報部、組織部の事業の実績が報告された。特に、同窓会設立80周年を記念する事業として、総務部関係では、記念総会の懇親会には約660名を超える参加者があったこと、また、広報部関係では、会報誌「澁江」51号で、同窓会設立80周年を記念して開催された臨時全国支部長会議における討議の内容の集約、支部長座談会、井阪健一元理事長の特別インタビュー等の特集を組んだことなどが報告された。さらに組織部からは「緊急修学援助奨学金制度」と「遠隔地学生奨学金制度」に同窓会枠として採用人数を追加すること、入試広報(高等学校訪問を支部の組織力を動員して支援すること、さらに黒正蔵博士の命名による京都市の「哲学の道」の表示板が老朽化しているため、建て替えることについての説明があった。

第4号議案の会則改定については、事務局より大学の奨学金制度の支援に伴う会則の改定および内規の新設等について説明がなされた。

これらの説明に対し、坂本勝宣理事(45回)から収支予算における対前年度予算比較に対する疑問、質問が出され、事務局から説明がなされた。

審議の結果、それぞれが、5月中旬、大学の佐藤理事長および大樟会本部からの回答書が相次いで全国支部長会議に届けられた。本会議の席上、また、大学側からは大阪、兵庫など近畿地方に偏る志願者の是正を図るため、大樟会の地方支部と副委員長の眞鍋愛媛氏による入試広報高等学校訪問協力への期待が伝えられた。

2016年度
全国支部長
会議全国支部長会議からの
要望実現に向けて

平成28年度全国支部長会議は、大樟会理事会に先立ち、午前11時からJ館3階の第1会議室で開催された。全国支部長会議は、現在全国の51支部と6部会、2団体の支部長、会長で構成されており、今回は43支部と5部会、今回は43支部と5部会が出席した。

「臨時全国支部長会議」に

明がなされた。これらの説明に対し、坂本勝宣理事(45回)から収支予算における対前年度予算比較に対する疑問、質問が出され、事務局から説明がなされた。

審議の結果、それぞれが、5月中旬、大学の佐藤理事長および大樟会本部からの回答書が相次いで全国支部長会議に届けられた。本会議の席上、また、大学側からは大阪、兵庫など近畿地方に偏る志願者の是正を図るため、大樟会の地方支部と副委員長の眞鍋愛媛氏による入試広報高等学校訪問協力への期待が伝えられた。

おいて、今後の大樟会および大学のあるべき姿について熱く議論されたことを受け、本年2月、全国支部長会議から大学当局および大樟会本部に要望内容の実現に向けて努力を続けていくことが、大樟会本部への要望については、充実した同窓会名簿の整備に努めることとして了承された。

平成28年度大樟会本部・支部行事予定(平成28年6月1日現在)

	支部名	日程	会場
6月	大樟体育会	4日(土)	本学
	福井支部	11日(土)	出雲大社福井分院 出雲記念館
	伊丹支部	11日(土)	伊丹シティホテル
	滋賀支部	12日(日)	クサツエストピアホテル
	池田支部	19日(日)	太郎兵衛寿司
	岡山支部	25日(土)	岡山プラザホテル
7月	北大阪支部	25日(土)	ホテル阪急エキスポパーク
	豊中支部	26日(日)	ホテルアイボリー
	熊本支部	2日(土)	ホテルヴェルデ
	税理士大樟会	8日(金)	ハートンホテル心斎橋
	但馬支部	9日(土)	夢都
	香川支部	9日(土)	ルポール讃岐
8月	愛媛支部	10日(日)	道後やすらぎ荘
	富山支部	10日(日)	富山第一ホテル
	川西・川辺	16日(土)	すし半川西店
	社労士大樟会	23日(土)	本学
	静岡支部	6日(土)	ホテルセンチュリー 静岡
	津山支部	20日(土)	津山国際ホテル
9月	明石支部	3日(土)	グリーンヒルホテル明石
	日立大樟会	10日(土)	日立金属 高輪和彊館(ワキョウカン)
	東京支部	14日(水)	Sun-mi高松
	淡路島支部	24日(土)	ウェルネスパーク五色 浜千鳥
	神戸支部	25日(日)	レニージュエル
	北九州支部	1日(土)	未定
10月	和歌山支部	8日(土)	ホテルグランヴィア和歌山
	姫路支部	22日(土)	姫路キャッスルグランヴィリオホテル
	三重支部	22日(土)	和田金
	広島支部	22日(土)	リーガロイヤルホテル広島
	愛知支部	23日(日)	名鉄ニューグランドホテル
	東播磨支部	23日(日)	加古川プラザホテル『東京田村』
11月	山口支部	29日(土)	未定
	大樟会総会(ホームカミングデー)	30日(日)	本学
	大分支部	12日(土)	大分センチュリーホテル
	石川支部	12日(土)	ホテルサンルート小松
	京都支部	19日(土)	HUB京都ヨドバシ店
	堺支部	19日(土)	ホテル・アゴーラリージェンシー堺
	高知支部	19日(土)	三翠園
	宮崎支部	19日(土)	ホテルメリーージュ宮崎
	大樟教育研究会	下旬予定	本学

本年度の
大樟会総会は 10月30日 開催
—ホームカミングデーと同日開催—

同窓生へのお願い

次号の大樟会情報誌「澁江」
「北から南から」復活楽しいお便りを
お待ちしております!!

大樟会の情報誌「澁江52号」(平成29年1月発行予定)で、かつて好評を博した「北から南から」のページを17年振りに復活させたいと考えておりますので、原稿をお寄せください。

このページは、全国各地の同窓生からのお便りを掲載するものです。内容は、あなたの近況等を400字程度にまとめていただき、ご住所、お名前、卒業年度、電話番号を明記の上、原稿にふさわしい写真あるいは顔写真を添付してください。採用させていただいた方には薄謝を進呈いたします。

- 締め切り 平成28年7月末必着
- 送付先 〒533-8533
大阪市東淀川区大隅2-2-8
大阪経済大学大樟会事務局
「北から南から」係 宛
- eメール okusu@osaka-ue-denko.com



企業の課題解決へ企画提案 業界知り就活に意識向上

山本俊一郎ゼミ(当時、経済学部3年) 15名は、昨年11月から1月にかけて大阪市内の中小ものづくり企業と交流

し、企業の抱える課題解決への企画提案に取り組んだ。
大阪市経済戦略局が推進する「市内ものづくり企業と大学生の交流事業」の一環。経営者や社員から事業内容や働きがいについて直接聞くことができるので、学生は業界理解や就活への意識を高めることができる。企業にとっても就職を控えた大学生にアプローチできるメリットがある。
対象の企業は、金井重要工業株式会社(北区)、木村アルミ箔株式会社(中央区)、株式会社コンサス(住之江区)の3社で、大阪市から紹介された。
ゼミ生は3班に分かれ、業界研究や工場見学、社員との交流、企画提案の資料作成をした。
金井重要工業は、繊維機器や不織布製品を製造している。一宮正寛さんは「ものづくり企業にもともと興味があった。同じ品質で製品を作り続ける難しさを実感することができ、とても勉強になった」と振り返った。木村隆志さんは「BtoBという存在を知り、自分の就職を考えるうえで参考になった」といい、高田侑摩さんは「台所スポンジの材料を作っていたので身近に感じ、ものづくり企業に興味がわくようになった」と話す。
木村アルミ箔は、コンビニ弁当のカップケースを製造している。西川茉那さんは「カップラーメンに入っているか

やくの袋を「湯で溶けるようにしては」と提案。ぜひ商品化したいと言ってもらえた。今回の取り組みをきっかけに、身の回りのものをどうすれば便利にできるか考えるようになった」と語り、荻野沙紀さんは「提案をまとめる時、チーム全員で気持ちを合わせて乗り切り、達成感を味わうことができた」と喜んでいた。
コンサスは、バルブや継ぎ手を製造、販売している。山本遼さんは「工場を見学して、無駄なく仕事をしていることを実感した。有名でなくても、よい製品を作っている企業に就職したいと考えようになった」と話し、藤本貴大さんは「社長と生産部長の熱意や、徹底した品質管理に驚いた」と語った。
山本教授は「企業の方から刺激を受け、多様な角度から見ることができるようになった。ものづくりに暗いイメージを抱く学生もいたが、現場を見ることで情熱や楽しさを感じるようになった」と交流の成果を語る。就活でも、建築溶剤メーカーや機械部品卸の説明会に出向くなど、以前に比べて関心を持つ企業の幅が広がっている。今年度の3年生にも交流事業への取り組みを予定している。

ゼミが今、熱い!!!

特集



高齢者と子どもをターゲット 野球ビジネス企画で優秀賞

昨年12月24日に応募締め切りの「大学生のベースボールビジネスアワード2015／読売新聞社主催」で、田島良輝ゼミ(当時、人間科学部3年)4名が、優秀賞を受賞した。提示された三つのテーマから、「プロ野球球団の集客策またはブランディングについて具体的なアイデア」を選択し、キーワードとして指定された「読売ジャイアンツ二軍戦(ジャイアンツ球場)の集客策」を考えた。

集客率向上のためのターゲットとしたのは子どもと高齢者。子ども向けには二軍選手と直接やり取りできるアプリなどを、高齢者向けには地方試合の観戦とバス旅行をセットにしたスポーツツーリズムを企画した。どちらも二軍選手との交流で長期的なファンを醸成することが目的。

応募を決めてから3カ月という短い期間でまとめる必要があり、メンバーは授業時間以外でも集まり知恵を絞った。しかし、ホームページに掲載されている過去の応募作品は非常にレベルが高く、「受賞できるとは思っていなかった」とリーダーの楠原諒也さん。実際、実現性などの検証は十分にはできていなかったが、アイデアに関しては審査員の評価は高く、優秀賞となった。

楠原さんは「スポーツに関するマーケティングやマネジメントに関する知識が深まった。卒業後は地元のスポーツ振興に関わりたい」。上田哲也さんは「スポーツは、する側と支える側の相互努力で成り立っていると感じた」。高嶋宏治さんは「他グループの企画との差別化が難しかったが、役割分担に頑張り、責任感が培えた」。今村結衣さんは「意見を出し合って整理し、まとめていくという、物事の考え方・進め方が学べた」。

指導にあたった田島准教授は「今回のチャレンジで、ゼミ生同士の横の信頼関係が築けた。短い期間で、よくここまでまとめたと思う。社会で勉強させてもらうというスタイルがゼミ教育のスタンダード。今後も学生が自ら何かをつかみ取れるようサポートしていきたい」とゼミ教育への意欲を語った。

独創的グラウンド案 スポーツ政策提言で優秀賞

相原正道ゼミC班(当時、人間科学部3年)6名が、昨年11月、学生が日本のスポーツの現状と将来について考え政策提言を行う「Sport Policy for Japan 2015／笹川スポーツ財団主催」に参加。19大学39チーム 総勢201名がレベルの高いプレゼンテーションを展開するなか、独創性部門で優秀賞を受賞した。

テーマは「大阪府スポーツ推進計画〜大阪府スポーツ王国の創造〜大阪府のグラウンドの活用方法」。グラウンドを効率よく活用できるように、大阪府におけるグラウンドの予約や利用状況を調査し、稼働率を高めるための検索・予約システムを提案した。
本学のZEMI-1グランプリでは準備不足もあり予選で敗退。その悔しさをバネに、内容やプレゼン方法などを見直し工夫を重ねた。その結果、コンテストで優勝は逃したものの、審査員からは「エビデンスに基づいた提言」と高い評価を得た。

山本愛巳さんは「この経験を生かし新たなことにチャレンジしたい」。田中佑佳さんは「他大学チームの発表を聞き大きな刺激を受けた」。青木花恋さんは「提案に向けた準備期間で、さまざまな経験ができた」。横山雄太郎さんは「プロジェクトを進めるうえで、意思疎通の大切さを学んだ」。

環境や児童労働に焦点 コットンハンカチからCSR研究

江島由裕ゼミの学生は、企業のCSR(社会的責任)活動について研究するなかで、「オーガニックコットンハンカチプロジェクト」に取り組んできた。コンセプトは、無農薬コットンの普及、綿栽培における児童労働の改善、綿を栽培する発展途上国とのフェアトレード(公正な取引)促進。この三つをアピールするCSR商品として、オリジナルデザインによるオーガニックコットンハンカチ4種類を作成。商品企画から



営業活動、商業施設やビジネスイベントなどでのプレゼンや販売に至る全プロセスを学生たち自身が実践した。
(当時、経営学部2年) 17名が関わったのは、オーガニックコットンハンカチプロジェクトの総仕上げとも言える最終段階。本学近隣の小松幼稚園で、園児たちを対象に、ペープサート(紙人形劇)による学習会を行った。目的は、将来の消費者である子どもたちに、インドの児童労働の現状や無農薬コットンについて学んでもらうこと。劇のストーリーや紙人形、背景のセットなども自分たちで手作りし、当日は懸命に園児たちを楽しませ盛り上げた。

リーダーの小笠原真さんは「幼稚園児に興味を持ってもらえる、わかりやすいストーリーを考えた。言いたかったことは伝わるような気がする」。台本を作成した加藤結女さんは「わかりやすく伝えることの大切さと難しさがわかり勉強になった」。紙人形を製作した千田ひかるさんは「みんなが少しずつ自主的に動くようになり、最後の良いものが作れたと思う」。紙人形の声を担当した堀幸宣さんは「本番で自分たちに足りない部分も見えて成長できた」。子どもたちをゲームで盛り上げた吉岡里菜さんは「積極的に関わろうという自主性が身についた」と、それぞれが自身の成長を実感している。

江島教授は「細かい課題をクリアしていくなかで、問題を解決するための知恵が身についたように思う。やりとげる喜びも味わえたのではないかと」と話し、ゼミ生たちの変化に手応えを感じている様子だった。

身近な社会問題に着目 プレゼンコンテストで優秀賞

平成28年2月、統計GISソフト(地理情報システム)を用いた地域経済分析などに取り組んできた草薙信昭ゼミの5グ



ループ(当時、情報社会学部3年) 20名が、「平成27年度G-Censusプレゼンテーション資料作成コンテスト」で、優秀賞と奨励賞を受賞した。

平成26年度のコンテストでは3グループが奨励賞。平成27年度は1グループが優秀賞、4グループが奨励賞と、年々実力をつけてきている。

優秀賞を受賞したグループのテーマは「大阪府における家庭ごみに関する研究」。奨励賞を受賞した4グループのテーマは、「大阪府における生活保護の実態」、「大阪市東淀川区の水害に関する避難施設と人口分布」、「大阪府における交通事故の現状と対策」、「大阪府における待機児童の現状と背景」。いずれも、身近な社会問題に着目したもので、膨大な関連データを収集し、データマップを駆使して、視覚的に分析して結論を導き出した。

指導教員の草薙教授は「学内でのゼミ活動だけでは一定の枠を超えられず、自己満足に終わってしまう。外部のコンテストに応募することで刺激を受け気づきを得られる。今回も学生たちは高いレベルをめざして大きく成長してくれた。次の機会には最優秀賞をねらいたい」と学生たちをねぎらい激励していた。

■「大阪府における家庭ごみに関する研究」チーム
・高井未来さん チームにおける自分の役割に対する認識が強くなった。優秀賞という結果は就活でもアピールできる。
・中村友則さん メンバーと連携することの大切さを学べた。資料作成の力も身についた。

■「大阪府における生活保護の実態」チーム
・池田康希さん(リーダー) グループ全員で協力して頑張り、結果がついてきた。チームとしての団結力が強まった。

■「大阪市東淀川区の水害に関する避難施設と人口分布」チーム
・久保貴明さん(リーダー) それぞれの個性をどう生かすかが難しかったが、時間を考え計画的に進めることの大切さを学べた。

■「大阪府における交通事故の現状と対策」チーム
・福田晃平さん(リーダー) 自ら積極的に動くことを体験できた。全員がしっかりと活動してくれたことをリーダーとして感謝している。
・木村勇介さん 膨大なデータの入力や、みんなで作ったものを作ることに苦労したが、達成感が得られた。

■「大阪府における待機児童の現状と背景」チーム
・安田智絵さん(リーダー) 得手不得手がある中で、一人ひとりがアイデアを出し合い協力し合うことが大事だとわかった。
・鈴木侑奈さん 待機児童は将来、自分自身にも降りかかる問題。政策などに関する興味も芽生えた。
・三原碧生さん データ収集力を身につける必要性を実感。想定外の事態にも柔軟に対応する力を養えた。
・柴崎和也さん 話題になっているテーマについて検証できた。チームワークの大切さと達成感を味わえた。

ゼミ活動について下記のURLで詳しく読めます
<http://www.osaka-ue.ac.jp/education/seminar/zemisyoukai/>



サービス 中村健二ゼミB班

サービス <http://cas.feeling.jp/> がオープンしている。今後は卒業研究のテーマとしてホームページを運営しながら、クライアント企業を新規開拓していくという。
半年から1年かけてシステムの仕組みなどについて試行錯誤し、調整や変更を繰り返した二つのビジネスプラン。小林和也さんは「学生ではなかなか体験できない活動を通じて、自分たちが主体的に動く姿勢を培えた」。山田拓哉さんは「何か一つの目標に向かってやり続けることが大事だと実感し成長できた」。足立悠希さんは「周囲に気を配り状況を判断しながら進んでいく力がついた」。井上奈緒さんは「それぞれの役割分担に対して全員が責任を持って行動した。チーム力が大事だと思った」。今野菜奈さんは「この経験は就活でも生かせると思う。卒業後は広告の世界で自分を表現していきたい」。留学後にチームに合流したという廣島万佑子さんは「みんなの万全な準備と質疑応答での対応に驚いた。頑張りや刺激を受けた」などと、ゼミ活動を通じた自身の成長を語った。中村准教授も「チーム内のほとんどのメンバーがプレゼンを経験しており、受賞も多く、チーム全体が一丸となって取り組んだ一つの成功の形だと思う」とB班を賞賛した。

住宅の安全システムを考え 最優秀賞など数々受賞

中村健二ゼミB班(当時、情報社会学部3年) 6名が、昨年11月の「第12回立命館大学学生ベンチャーコンテスト2015」で優秀賞、同年12月の「榎山女学園現代マネジメント学部・第3回ビジネスプランコンテスト」で最優秀賞、同年同月の「第17回キャンパスベンチャーグランプリ大阪」で特別賞、今年1月の「第15回東三河ビジネスプランコンテスト」で特別賞、同年同月の「SENDAI for Startups! ビジネスグランプリ2016」で奨励賞、同年2月の「横浜ビジネスグランプリ2016」で優秀賞(学生部門)を受賞するなど、多くのコンテストでめざましい結果を残した。

B班は「アンビエント社会における次世代型住宅セキュリティシステム『B-PEASE』」、「学生による企業評価サービス『CAS』」という2つのビジネスプランに取り組んだ。「B-PEASE」では、ITが見えない形で生活に溶けこむ社会を想定したセキュリティシステムを提案。コンテストの審査員に、セキュリティ市場に着目した点や実現性の高さを評価された。「CAS」は学生がネット上の口コミを収集・分析し、その結果に対する企業の取り組みを調査しホームページで公表するというプラン。4月から専用サイト(学生による企業評価

高齢者向けネットサービス提案 トップ賞など4賞受賞

中村健二ゼミA班(当時、情報社会学部3年) 6名は、1月の「学生サポートセンター・学生ビジネスプランコンテスト」でアイデア賞、2月の「創業支援セミナーinわかやまビジネスプランコンテスト」でキャンパスベンチャー賞、同月の「志太ビジネスプラングランプリ」で特別賞、同月「ビジコン奈良2016」でU-22部門トップ賞を受賞した。

各コンテストで提案したのは「高齢者と地域を結ぶ『SRS』ネット」。超高齢社会を迎えるなか、激増する高齢者の孤独・孤立に着目し、緊密な地域コミュニティを醸成するため、高齢者向けに特化したインターネットサービスを提案した。高齢者のデジタルデバイドを解消する狙いもあるという。昨年のZEMI-1グランプリで好結果が得られず、全てを見直した結果、参加した11コンテストのうち4つで賞を獲得した。

リーダーを務める根ヶ山雄規さんは「自分一人の力には限界があることを知り、人の意見を尊重できるようになった。また偏差値に関係なく努力すれば勝てることがわかった」。荒川和也さんは「それぞれに個性を持ち、思いも異なる人たちが一丸となって進むため、自分に行き届くことは何かを学べたと思う。協調性も身についた」。西田雪乃さんは「コンテスト出場で良い社会経験ができた。社会で苦手な人と付き合っていくコツも学べたように思う」。西尾光生さんは「技術的な部分を担当して自信がつき、自分から行動できるようになった」。中村聡志さんは「チームのみんなを見ていて、自分という人間について考える機会になった」。江川翔太さんは「チームで一つのものを作り上げていく快感と、役割分担における達成感を味わえた」と、話してくれた。

中村准教授は「みんなが頑張れる環境を用意するのが私の役目。いろいろな学生が所属するゼミは社会の縮図であり、ビジネス社会で働ける人材が育っている」と受賞の感念などを語った。



腕時計型端末で健康管理 ビジネスコンテスト特別賞に

中村健二ゼミC班(当時、情報社会学部3年) 6名が、今年2月の「おおもり起業家グランプリビジネスプランコンテスト」で特別賞・オーディエンス賞、同3月の「関西ベンチャー学会 第15回年次大会」で奨励賞を受賞した。提案したビジネスプランは「ウェアラブル端末を用いた健康管理・応急手当サービス『BANDICAL』」。身につけた腕時

計型端末で身体の異常を迅速に検知し、緊急地震速報の仕組みを利用し発信することで、社会問題となっている高齢者の孤独死などを未然に防ごうというシステムだ。医療分野に踏み込むプランだけに、審査員からは課題も指摘されたが、今後の展開などに関する貴重な気づきも得られたという。

コンテストをめざした活動で何より大変だったのは「情報を共有しメンバー6名を一つのチームとしてまとめていくことだった」と、リーダーでありプレゼンも務めた増田里緒子さん。しかし「失敗により自分が成長していく実感があつた」と手応えを語る。増田さんは支えた他のメンバーも自身の顕著な変化を感じており、山下暢慶さんは「情報を自ら積極的に集めることができるようになり、就活に役立っている」。井崎駿さんは「日々の努力をコツコツと積み重ねることでパフォーマンスが上がるのがわかった」。松田直樹さんは「新しいプレゼンソフトPrezi(プレジ)に触れたことで就活や社会で役立つ能力が培えた」。柴田彩奈さんは「いろいろな情報を調べプランに生かしていくなかで、皆と協力して作業することを学べた」。池原梨奈さんは「チームでは一人ひとりの役割が大事だとわかったし、本気でやれば何とかなると実感した」と振り返る。

指導にあたった中村准教授は、「賞を取ることを目標に頑張った。全員がコンテスト参加を通じて成長し、見事に目標を達成した。大学では過程も評価されるが、社会では結果が全て。得た知識をいかす方法をゼミ活動で学び、卒業後に役立てて欲しい」とC班の努力をねぎらった。



それぞれ結果を出し
弾みをつける！

●北原俊幸 主将(4年生)
現在陸上部には、昨年の悔しさをバネに「これは絶対に全日本大会駅伝対校選手権大会に優勝する」という強い意識が浸透しています。また「選手として出場したい」という意識が高く熱が入っています。あとは予選会本番に調子を上げることで課題です。監督の指導は厳しいので練習だけでなく、食事面や生活面でも指導した結果につながっています。予選会で、パフォーマンスを発揮し勝ち取ります。

「ワルカムシアター」が、5月13日(金)午後5時30分から、A館フレアホールで開催された。上映前には事前収録したラジオ番組を流すなど、初めての試みもチャレンジ。映画研究部のO.B.も本学芸術会の学生など約150名が鑑賞し、一作ごとに大きな拍手が送られた。

を活かし 映画研究
レベルアップを



が多いなかで、かつてミ
さにこだわったというミ
のアリ作。初めての
作品が編集作業が好き
で技術的にも進歩して
映画づくりは大学時代
の財産。

トレジャー・イン・オ
ーランドは橋田寿賀子と経済
学部の学生。一人の
男の子がイスで敵と戦
っているというファンタ
ジー。

先輩たちを超える作品を
創りたい。

情報社学芸部3年ば、
（部長の安食拓哉さん
今年度も2名の新生が
入部してくれて嬉しい。
また、2月の関西ネッ
ト※では1位2位を
独占できた。この高い
レベルをこれからも引き
上げていく。頑張った

しんじといが「上映して評
価される時は本当に嬉しい。4年次では卒業制作
として『長編』挑戦だ」。

「船場20か所」とい
い難しタイタルの映
画にチャレンジしたのは
出会裕三さん経営学部2
年。「も」と本心を出し
て欲しいとのメッセー

※関西エリア
で上映される観望している関西の各
学が上映を希望している団体
が上映を開始している団体



勝ちにこだわる野球に
手ごたえ!

経スポ

●春季リーグ戦結果
第5位
3勝9敗 勝ち点1

硬式野球部は今年から監督に、同部OBでありオリックスでプレーした

		平成28年度 春季リーグ戦										
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	計
1回戦 5/21	龍谷大学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
	大阪経済大学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2回戦 5/22	大阪経済大学	0	1	0	0	0	0	0	0	2	0	3
	龍谷大学	0	1	0	1	0	0	0	0	3	4	4

1年生バッテリーが期待に応える

5月21日、滋賀県の皇子山総合運動公園球場。優勝の可能性は潰えていたものの、山本監督との短期間のトレーニングで培ってきた全員野球を体現するべく、龍谷大学生の試合へ。吹奏楽部部長とアリーダー部の応援を背に、次につなげるための大事な一戦に臨んだ。

ゲームは早稲まる投手戦に。ピッチャー大村、三ッパンチの小田の先発で、三ッパンチが月曜

零封リレーを続けるが、線も沈黙。9回が終った0対0、延長に突入。「戦う姿勢」に今後の活躍を期待

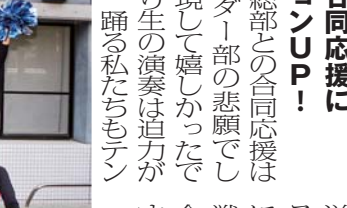
直後の10回表に試合動く。ヒットと送りバントで、4球で2アウト。満塁のピンチ。迎えた龍谷大学2番にタイムリリーヒットを浴び、失点を喫す。あらめない大経大はのり裏、木村・井関のタリリリーによる連打でアウト・1塁とチャンスを作るが、後続が引退。悔しい1点差での敗戦となった。

チアリーダー部

念願の合同応援に
テンションUP！

吹奏楽総部の合同応援は
チアリーダー部の悲願でした！
実現して嬉しかったです。
やはり生の演奏は迫力が
違います。踊る私たもテン





ション
の舞台
が短く
同応援
そこか
振り付
わける
送られ
こさ着
に楽し
戦が成
今後も
すね。
私たは

芝原那智 主将 4年生

上がりの子だね。別
にも重なり、練習期間
決定し、今が3月。
両部で串流めて
を考えたが、合
間がとれず、動員に
したから今日に
またした。でも、本当
にだった。新しい挑
し目になったので
は、硬式野球部とテ

メリカソフトボール部の記
急援をメインに活動してい
す。部のモットは「いつ
も楽し」そして「チーム
準の後押し」。笑顔と気を
屈けて、少しでも勝利のバツ
アップができれば願って
います。

●活動時間
●月曜日：金曜日の週2回
(学期ごとに変更あり)
講義の空き時間(90分)
土曜日(秋学期のみ)
9時30分～13時
●活動場所：体育館

いかに高い意志を持ち、自ら取り組めるかがカギ

秋のちりょうは10月10日、秋田県・伊勢、丹後のどこに強さの秘訣あるのか。鶴岡弘監督に聞きました。

句も言わず素直に取り組みな。だけどそれは自分のレベルを超えるのは難しいから、と努力を重ねる切さを話してました。

私は選手たちに合宿の時「みなさんが太い線になら」と努力を重ねる切さを話してました。

紙にこの言葉を書き、練習場に貼って、選手に意識させます。なぜなら、急流から流れ落ちた場合、だまが落ちたなどに気づけませんが、鵜やかな小川で流されたら、気づいた時にはとんでもないところまで落ちてしまっているからです。

うちの選手たちはほほえむような子はいない。ただ、表彰台にはあつて、まだまた努力と工夫がいります。そこは日々の当たり前のことか当たり前でないことに気づくことかと。服装、時間、勉強がきちんとできるか。人が喜ばれるような行いができるか。メンタル面が強くなっているか。こゝで時間がかることです。

私が監督に就任して今年で7年目。あつという間でした。今年の選手たちの状態決していいとはいえない。だから私は何としても全日本大学駅伝対校選手権大会関西地区選考会を勝って、伊勢に行きたいです。う勢に行きたければ、う勢に行かなくてはならない。おかげの出雲駅伝に彼らともに行けるよう頑張っ指導していきますので、応援よろしく願っています。

VOICE

● 温水宏幸さん
 (経済学部3年)
 笑いもある楽しい研究会になった。主催校として仕切る立場を経験したことで成長できた。積極的発言する力や仲間と協力する大切さへの適用について

財務会計部門に山田武蔵先生から「論文の書き方」について講義があった。先生は「論文は、結論先行で書く」ということを強調された。結論先行で書くという書き方は、結論を最初に示し、その後に論拠を述べていくというスタイル。本学からは、管理会計学部1年に河野雅弘さん、経済学部3年3号が「ISOMのBS」を述べたという。先生は「論文を書く際には、論文の内容に対する結論が行われ、最後に発表者が結論を述べる」というスタイル。先生は「論文を書く際には、論文の内容に対する結論が行われ、最後に発表者が結論を述べる」というスタイル。

テーマで発表。会場の参加者と活発な議論を行った。

締めくくられた講評では、簿記会計研究部顧問の宮武准教授が「レベルの高さに驚いた」と発表者全員を評価したうえで、「一人ひとりの論文の内容、問題点を指摘、精度を高めるための課題などについてアドバイスした。」

●山田武さん
(経済学部3年)

勉強不足な部分もあったが、議論を発展させて知識を増やすことができた。緊張に対処する方法もわかり、ゼミ活動にも生かせると思う。





VOICE

●山本和作 監督

1年生バッテリーの粘りで守備のリズムはある程度作れましたが、打線が力を発揮できませんでした。たくさん声援に応えられず申し訳ない気持ちです。ただ、練習の質とも多くを求めてきたなかで、選手たちはよくついてきてくれました。技術面の向上はもちろん、懸命に野球に取り組む姿勢、あきらめない気持ちや仲間見えた大会でした。これはプロ・アマ関係なく、持ち続けるべきです。当たり前のことを当たり前にやる全員野球を実践し、勝つチームをめざします。

●永井勝也 主将
(4年生)



ベンチの雰囲気は丸々となっていました。それだけに敗戦は残念。今までのチームは個々の力があっても、チームとして「勝ちたい」という気持ちで足りなかった。山本監督の指導で、戦う姿勢が表に出てきたと感じています。夏には強豪チームとのオープン戦を増やし力を蓄え、秋のリーグ戦に挑みます。

●細川晃佑 主将
(4年生)



勝てる試合を落としてしまい悔しいです。チャンスで一本が出ませんでした。課題を克服して次に臨みたいと思います。山本監督からは、全力疾走といった基礎の重要性を言われています。6回の高田のヘッドスライディングは、意識の変化が表れたプレーだったのではないのでしょうか。秋に向け、まずは日頃の練習が気を引き締めて取り組んでいます。



田中智大
指揮者 2年生

吹奏楽総部

全15曲を暗譜で！
大きな経験に

吹奏楽総部として野球部の
応援に初めて参加しました。
野外での演奏は経験済み。戸
惑いはありませんでしたが、



チア&吹
ハイ!

曲の始めと終わりに関して、応援する人とうっす！一緒にできれば良かったけど反省しています。でも、それ以上に部員一同楽しに演奏でき、予想以上に、「盛り上がり」も作れたのでホッとしました。短い練習期間の中、全15曲をすべて暗譜でやりきり、とても良い経験になったと喜んでいました。

普段は年2回の定期コンサート開催、企業や地域の要望

で開く演奏会など、盛りだくさんで活動しています。マーチングバンド「RED's」としてバンドにも参加しています。吹奏楽の魅力は、みんなそれぞれの音を奏でていくことで、これみんなが楽しめる音楽を作っていくたいです。

●活動時間
月・火・木 金曜日
18時～20時

●活動場所 フレアホール



に比べ、龍谷打線を抑え込む、得点の係も申し分なく守備も許さなかったが、相手投手も好投。しか打線は初回から無安打が続き、5回4番木村の初安打、6回7番高田の塁へのヘッドスライディングによる内野安打を、徐々に攻め込むが、ついに単発に終わった。7回からは久米が継投。翌日の最終戦でも84の惜敗。春季リーグを5位で終えた。結果こそ著しいものではなかったが、新監督の志、全力での走塁、粘りのビッチング、ベンチからの応援など、いかにチームで課題とされているかわかった。今後の活躍をいかに期待する。

チアリーダー部

吹奏楽総部の合同応援は
チアリーダー部の悲願でした！
実現して嬉しかったです。
やはり生の演奏は迫力が
違います。踊る私にもテン
ションUP！

念願の合同応援に
テンションUP！
吹奏楽総部の合同応援は
チアリーダー部の悲願でし
た！ 実現して嬉しかったで
す。やはり生の演奏は迫力
が違います。踊る私にもテン
ションUP！

に楽し
こさ着
送り付
わける
振りが
同窓生
が短く
の舞台
シヨッ

に楽し
こさ着
送り付
わける
振りが
同窓生
が短く
の舞台
シヨッ

上がりの子だね。別
にも重なり、練習期間
決定し、来月が3月。
両部で串流決めて
を考えたが、合
間がとれず、動員に
したから今日に
またした。でも、本当
にだった。新しい挑
し目になったので
は、硬式野球部とテ

メリカソフトボール部の記
急援をタイに活動してい
す。部のモットは「いつ
も楽し」そして「チーム
準の後援」。笑顔と気を
屈けて、少しでも勝利のバツ
アップができれば願って
います。

●活動時間
●月曜日・金曜日の週2回
(学期ごとに変更あり)
講義の空き時間(90分)
土曜日(秋学期のみ)
9時30分～13時
●活動場所 体育館

FD通信

第28回全学FDフォーラム

『大学教育における反転授業とアクティブラーニングの組合せの効果』

●2015年12月11日(金) 10:30～12:00



講師に山梨大学大学院総合研究部工学域教授の森澤正之氏をお招きし、『大学教育における反転授業とアクティブラーニングの組合せの効果』をテーマにお話しいただきました。教員の準備した動画な

全学FD委員会では、本学の教育の質を向上させるために、昨年12月と今年4月に2回のFDフォーラム、そして新任者研修会を行いましたのでご報告いたします。

どで予め基礎学習を行い、授業では教員と学生あるいは学生同士のコミュニケーションを活発に行い、深く学ぶ。反転授業は従来の講義方法と大きく違うため進め方に戸惑うかもしれませんが、動画の準備は完璧を目指さない、事前学習をしなかった学生へ講義の中でフォローをしない等、反転授業を進める上で、いくつかの勘所をお教えいただきました。加えてアクティブラーニングを取り入れることで、学生の学習意欲や理解度の高まりが期待されると、教員からは試してみたいという声も聞かれました。

【参加者】26名(教員16名、職員10名)

新任者研修会の開催

●2016年4月2日(土) 10:00～17:00

2015年10月着任者1名、2016年4月着任者11名を対象に実施されました。内容は、徳永光俊学長による「本学の歴史と教育課題」、4学部長による教育方針と現状・課題、黒正洋史進路支援部長による本学学生の就職状況と課題、そして情報処理センターによる本学のIT環境とその使い方の説明でした。

第29回全学FDフォーラム

『学生がよく学ぶ授業法』

●2016年4月4日(月) 13:00～17:00

『学生がよく学ぶ授業法』をテーマに、人間科学部 古宮昇教授によるグループワーク中心の講義が行われました。

【参加者】新任教員10名

同窓生・後援会員の皆様へ

2016年度 大経大

パソコン教室のご案内

昨年に引き続き、今年もパソコン教室を開催させて頂き運びとなりました。本年度も充実した講義内容を予定しておりますので、皆様お誘い合わせの上、ご参加くださいますようお願い申し上げます。

●開催日時 2016年9月3日(土)、4日(日) 午前9時～午後5時(予定)
※いずれか1日のみのご参加とさせていただきます。

●場所 大阪経済大学大隅キャンパスD館
●参加費 無料

応募要項

- 応募条件 本学同窓生とご家族／本学後援会員の方とご家族
※ご家族のみの参加も可能です。1組につき5名までとさせていただきます。
- 応募方法 受講ご希望の方は、申込用紙に必要事項をご記入の上、封書もしくはFAXにてお申し込みください。
※封書の場合、郵送料はご本人様のご負担となりますので予めご了承ください。
- 応募先 〒533-8533 大阪市東淀川区大隅2-2-8
大阪経済大学大樽会事務局 パソコン教室 係
TEL：06-6328-2431 FAX：06-6328-4564
- 申込締切日 7月14日(木)〈当日消印有効〉
※申込多数の場合は抽選とさせていただきます。当選発表は受講表の発送を持って代えさせていただきます。(8月中旬発送予定)
- 会場へのアクセス
会場には駐車場がございませんので、公共交通機関をご利用の上、ご来場ください。
電車 阪急京都線「上新庄」駅より徒歩15分
大阪市営地下鉄今里筋線「瑞光四丁目」駅より徒歩2分
バス 大阪市営バス「大阪経大前」下車すぐ
※当選者の方には別途詳しいアクセス方法をお知らせいたします。
- 延期の場合 3日・4日ともに台風などで延期となった場合は翌週の9月10日(土)となります。

コース概要

●スタートコース

電源のつけ方から、基本的なことを学び、少しでも応用にもチャレンジできるコースです。パソコンを今日から始めたい・楽しみたい方におすすめです。

●エクセルコース

Microsoft Office Excelの基礎から応用までの操作を学ぶコースです。表の作り方や関数の使い方など、全体的なスキルアップを目指します。エクセルの基礎知識がある方や、少し使ったことがある方などにおすすめです。

●ワードコース

Microsoft Office Wordの基礎から応用までの操作を学ぶコースです。チラシや案内状をゼロから一緒に作り上げていきます。パソコンの基本操作ができ、レベルアップしたい方におすすめです。

●パワーポイントコース

Microsoft Office PowerPointの基礎から応用までの操作を学ぶコースです。文字やイラスト、アニメーションのつけ方などを学べます。パワーポイントの知識が全くないという方でも安心して受講できます。

教職 KAWARABAN

本学では、中学校・高等学校の教員免許状に加えて、他大学(神戸親和女子大学)の通信教育を活用することで、小学校教諭一種免許状も取得できる。このプログラムの一期生で、教員採用試験に現役合格したのが、現在、豊中市立庄内小学校で1年1組を担当している八木大輔さん。小学校教諭として4年目を迎え、児童たちに大人気だという「八木先生」の奮闘ぶりを取材した。



取材を行ったのは5月18日(水)。1～2時間目の「図工」、3時間目の「国語」、4時間目の「道徳」の授業を見学した。「図工」では、児童たちは前の席に座っている友だちの顔を描くことに一生懸命。八木先生は子どもたちの目線に合わせて、身長180cmを超える大きな身体を折り曲げながら、一人ひとりに寄り添うように指導。続く「国語」では、ひらがなの書き方を、「道徳」では正しい挨拶の仕方などを、子どもたちの集中力を切らさないよう楽しく教えていた。



授業の始めと終わりには手話で挨拶して気持ちを切り替える工夫も。休憩時間には、グラウンドに飛び出し、ボール鬼ごっこで子どもたちと遊び、そしてお昼の給食が済むと、掃除を終えて子どもたちは下校。

4年目ということで、まだまだ力不足を感じているというが、「常に子どもの幸せを考えられる先生になりたい。子どもたちと一緒に悩んでいきたい」と、自身が目指す先生像を語る。何より嬉しいのは「昨日までできなかったことを、子どもたちができるようになった時ですね。」課題は「殻を破ること。もっと感情豊かに、自分を出しながら子どもたちと接していきたい」。

小学校教諭を目指す後輩に対しては「強い気持ちがあればハードなカリキュラムも乗り切れる。また、教職課程の勉強以外にも、いろいろな分野の知識を養い、多くの経験をできてほしい。それが教育の現場で役立つと思う」と強く語った。

本でつながる?? 大経大 古本募金

2015年10月より、「本でつながる大経大古本募金」をスタートしました。

このプロジェクトは、本やCD・DVD、ゲームなどをリサイクルし換金した額のご寄付によって本学をご支援いただく仕組みです。いただいたご寄付は、教育振興募金として受け入れ、本学学生の課外活動支援の充実に充てさせていただきます。

ご不要になった本等をご自宅で段ボールに詰め、申込書を同梱して提携会社に電話でお申し込みいただくか、または、直接WEBからお申し込みいただくだけで、ご指定の時間に宅配業者が受け取りに伺います。書籍類が5点以

上であれば送料は提携会社が負担し、無料になります。また、本学内に設置しております回収ボックスへ投函することでもご寄付いただけます。(この場合は匿名でのご寄付となります)

このプロジェクトを開始して約半年が経過しました。2016年4月20日時点で、同窓生や在学生の保護者の方を中心に、総勢43名の方から54,547円のご寄付をいただきました。すでに2回以上のご寄付をいただいている方もいらっしゃいます。この場をもちまして、ご支援に深く感謝いたします。

詳細については大学ホームページをご覧ください。